

# 人権だより

(令和3年度11月号)

川之石高校人権委員会 担当 2年次3組

愛媛県では11月11日から12月10日までの1か月間を「差別をなくする強調月間」としています。この期間に、同和問題をはじめとするあらゆる差別の解消と人権が尊重される社会づくりに向け、県民一人ひとりの人権意識の高揚を図るため、各種啓発事業が実施されます。本校でも11月19日に実施した人権・同和教育ホームルーム活動では、年次ごとのテーマで取り組みましたが、その様子は12月号で御報告します。

## 1 川高祭を終えて ユニセフ募金協力のお礼ー

11月3日(水)、川高祭が実施されました。人権委員会ではユニセフ募金の呼びかけを行いました。年次ごとに時間を決め、クラス単位で活動しました。事前のちらしの配布やお礼の粗品の準備は大変でしたが、保護者の方々、先生方、生徒の皆さんから募金していただくたびに、心温まる気持ちになりました。本当にありがとうございました。

募金総額「24,808円」を、先日、日本ユニセフ協会に送金させていただきました。



お礼の粗品セット  
(

- ・ユニセフのちらし
- ・ティッシュ
- ・ハートのストラップ)

)

役員のみんな  
で集計



## 2 人権啓発講演会の報告 ー講師：登口 加代先生ー

11月16日(火)の3・4時限に、人権啓発講演会がありました。「人として ～学びのちから～」という演題でした。御自身の子育てと八幡浜市ふれあいセンター（隣保館）で働くことから学んだことをわかりやすくお話していただきました。感想文の一部を掲載します。



登口さんの講演の様子



人権委員長が謝辞



講演後の教室の様子

### 【1年次感想文から】

- ・印象が強かったのは「赤ちゃんは生まれるとき、手に幸せを握りしめている」と言われたところでした。私にはまだ幼児の妹がいますが、生まれたときしっかりと手を握りしめていたことを思い出しました。
- ・「口」は励ます言葉や感謝を言うため、「手足」は人を助けるため、「目」は良い所を見つけるため、「耳」は人の話を最後まで聞くため等、改めて、自分の身体の各部分をそのように使いたいと思いました。

### 【2年次感想文から】

- ・登口さんが歌っていた好きな歌、私もすごく良い歌だと思いました。人は人に支えられていること、誰もが幸せになる権利を持っているということを改めてわかったし、人として生まれてきて幸せになるというのが当たり前でできたらいいなと思いました。
- ・うわさはうそか本当か分かりません。しかし、それを信じて他の人に伝えたことがあります。それによって傷つく人がいたかもしれません。そんなうわさに惑わされず、一つ一つの行動に責任を持って過ごしていきたいと思います。

### 【3年次感想文から】

- ・結婚をするときに、家族のことや被差別部落だからという理由で反対するのは違うことだし、してはいけないことだと思います。自分のありのままを受け入れてくれる人と結婚したいと思ったし、隠し事なく、秘密なしで受け入れてくれる人と出会いたいと思いました。
- ・登口さんのおっしゃっていた「C4生活」や娘さんからもらっていた手紙の話がとても素敵だったので、自分も親に日ごろの感謝の手紙を書いてみようと思いました。